

コロナ感染が急上昇するとともに支持率が急落して、やっぱり短命でしたかね。かつての菅(カン)首相は1年3ヶ月で、今の菅(スガ)首相はわずか1年で・・7月28日のゼミは、マルクス『資本論』第3巻36章「資本主義以前[の状態]」の前半(S613 まで)を高橋さんの報告で行いました。歴史的記述の章の存在への宇野理論を最初に述べ、続いて、利子生み資本(高利資本・高利貸資本)と商業資本(商人資本)は資本主義よりもっと以前から存在した、双子の兄弟であるが、後者の貨幣充用は利潤目的があるが、後者は貨幣蓄蔵者から転化した。高利資本は生産様式を変化させずに寄生虫として生産様式を搾取し衰弱させることで、民衆の憎悪にあった。ただし、アジア的な形態の下では、高利は長く存在することができた。ここではアジアの生産様式をヨーロッパとの比較を論じ、前者を相対的安定性を持っていると論じている。土地所有に依存しない貨幣財産を形成していく高利資本と商人資本によって、貨幣は使用価値での富の局限された表現形式に対立して、本来の富・一般的な富として現れ貨幣蓄蔵されていく。高利が独立した貨幣財産を形成し、古い労働条件の所有者を破滅させる限りで、産業資本形成の強力な一手段であり、それは商人資本が同様に独立な貨幣財産を形成することと同じである。討論では、イギリス・ロンドンにおける市場は産業資本を育成したが、そこにはオランダの高利資本や商人資本家が投資していた。古代社会のうち、ローマはラテン系だが、ギリシアにはアジアとも関連がある。ここでは信用論と同様に世界市場が重要な要素であり、小商品生産者は国内のみだが商品資本は海外との関係が重要。高利資本は社会の発展・進歩に直接結びつかず、従属的である。古代ギリシアのエピクロスという言葉で、「気孔」と訳すが、「器官」が正確。債務奴隷と賃金奴隷。出席は、小野さん、川口さん、高橋さんと高田の4名でした。

\*通常通り8月をお休みし、9月第2週から再開です。

\*会場「アイクルの部屋」は5月末に淀屋橋・道修町から堺筋本町・瓦町に移転しましたが、新しい「アイクルの部屋」では、「アイクル文庫」を新設し、本の寄贈を募っています、ジャンルは問いません。

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

9月8日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『人新世の「資本論」』第5章・第6章 報告斎藤さん

9月22日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

マルクス『資本論』第3巻36章 資本主義以前[の状態]：後半 報告高橋さん

10月13日(水)午後6時半～9時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

斎藤幸平『人新世の「資本論」』第7章・第8章 報告者未定

その後 10/27, 11/10, 11/24, 12/8, 12/22 (アイクルの部屋)

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso